

この評価ソフトは、改正省エネ基準の経過措置が終る2015年3月までの期間限定で使用できます。

CASBEE 新築[簡易版]

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版)2010年追補版Ver.2 (BPI/BEE対応) | 使用評価ソフト: CASBEE-NCb_2010bei&bpi(v.2.11)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)和泉市立小中一貫校	階数	地上3F
建設地	大阪府和泉市はつが野六丁目45番	構造	RC造
用途地域	第一種住居専用地域・指定なし(法)	平均居住人員	XX 人
気候区分		年間使用時間	XXX 時間/年
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2016年9月 竣工	評価の実施日	2014年11月20日
敷地面積	33,451 m ²	作成者	株式会社INA新建築研究所 大阪
建築面積	5,814 m ²	確認日	2014年11月30日
延床面積	10,597 m ²	確認者	株式会社INA新建築研究所 大阪文治 北 伸 功



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE=1.4 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

★★★★★

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	39%
③上記+②以外の	39%
④上記+	39%

(kg-CO₂/年・m²)

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア= 3.0

Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境 (敷地内)
Q1のスコア= 2.9	Q2のスコア= 3.2	Q3のスコア= 2.8
音環境: 2.7, 温熱環境: 2.3, 光・視環境: 3.3, 空気環境: 3.7	機能性: 3.1, 耐用性: 3.4, 対応性: 3.1	生物環境: 2.0, まちなみ: 3.0, 地域性: 3.6

LR 環境負荷低減性 LRのスコア= 3.6

LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
LR1のスコア= 3.9	LR2のスコア= 3.2	LR3のスコア= 3.6
建物の: 4.0, 自然エネ: 3.0, 設備システ: 5.0, 効率的: 3.0	水資源: 3.8, 非再生材料の: 3.1, 汚染物質: 3.0	地球温暖化: 5.0, 地域環境: 2.9, 周辺環境: 3.0

3 設計上の配慮事項		
総合	小中一貫校が「家」のように子供たちの成長していくための礎となり、教職員、保護者、地域との交流をうながし、「家族」のような「つながり」の中で育ててほしいという願いをこめ、「おおきな家のような学校」という設計主旨のもと計画しました。	その他 0
Q1 室内環境	普通教室棟相互の間に学年テラスを配置し離隔を十分に確保する事で、室内への採光、通風環境に配慮しました。また各教室に水平小庇を設ける事で、室内への日射軽減に配慮しました。	Q3 室外環境 (敷地内) 敷地周囲を積極的に緑化することで、地域環境に配慮しました。また砂埃や屋外放送による騒音問題に配慮し、住宅側に校舎、緑地側にグラウンドを配置しました。
LR1 エネルギー	校舎棟屋上に太陽光発電パネルを配置しました。また雨どい直結タイプの雨水タンクを学年テラスに配置し、菜園散水等への雨水利用を可能にしました。	LR3 敷地外環境 砂埃や屋外放送による騒音問題に配慮し、西側住宅地側に校舎、東側緑地側にグラウンドを配置しました。西側住宅地のプライバシーに配慮する為、隣地境界線から建物壁面(開口部)を約12m後退させた計画としました。また日影規制(4時間 2.5時間 1.5m)に対し、ゆとり
Q2 サービス性能	小中一貫校とはいえ、学年の節目、小中の節目はしっかりと確保するといった考えのもと、小学生、中学生のゾーン分けは明確に配置しつつ、学年間の交流を促す為、各階に交流スペースを配置しました。全体配置で	
LR2 資源・マテリアル	節水型の衛生器具を採用し水資源の保護に配慮しました。環境負荷の少ない自然材料、廃棄物などの再利用品や再生利用した資機材、低環境負荷材料(エコマテリアル)を内外装材や外構舗装材等に採用する計画としました。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

大阪府建築物環境配慮評価システム

大阪府の重点評価(結果)

Osakafu-新築・既存2010V1.03

【建物概要】	建物名称	(仮称)和泉市立小中一貫校		
	建設地	大阪府和泉市はつが野六丁目45番		
	用途/区分	学校		
【評価結果】	CASBEE 総合評価			B+
	CO2削減			5
	省エネ対策			4
	みどり・ヒート アイランド対策			3
	エネルギー消費量の報告			報告しない

【評価項目】				
省エネルギー対策		① CO2削減		
		② 省エネ対策		
項目		評価内容	スコア	評価
① CO2削減		CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価	5.0	5
② 省 エ ネ 対 策	外皮性能	CASBEE「Q1-2. 1. 3」のスコアによる評価	建物全体 3.0 住戸・宿泊	4
	建物の熱負荷抑制	CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価	4.0	
	自然エネルギーの利用	CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価	3.0	
	設備システムの高効率化	CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価	5.0	
	効率的運用	CASBEE「LR1-4」のスコアによる評価	3.0	
	水資源保護	CASBEE「LR2-1」のスコアによる評価	3.8	
	エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。	報告する 報告しない	
みどり ヒートアイランド対策		③ みどり・ヒートアイランド対策		
項目		評価内容	スコア	評価
生物環境の保全と創出		CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価	2.0	3
敷地内温熱環境の向上		CASBEE「Q3-3. 2」のスコアによる評価	3.0	
温熱環境悪化の改善		CASBEE「LR3-2. 2」のスコアによる評価	3.0	
その他				
先進的技術の導入		技術の名称	考慮事項	
特に配慮した事項				